

トドマツヒメハマキ (別名 トドマツメムシガ, アカトドマツヒメハマキ)

6月頃にトドマツの新葉を食べるイモムシ(幼虫)。最大長約12mm。頭や体は黄色。葉をつづりあわせて巣を作り、その内面だけを食べるので、巣はたいてい黄色に枯れる。

トドマツ林で多発することがあるといわれている。

【学名】 *Zeiraphera truncata*

【分類】 チョウ目 (Lepidoptera) , ハマキガ科 (Tortricidae)

【分布】 北海道, 本州; サハリン。

【特徴】

幼虫がよく似た種にトドマツヒメハマキがあり、しばしば混生する。トドマツヒメハマキの幼虫は肛門のすぐしたに櫛歯状の刺毛(尾叉, びさ)を持つが、トドマツアミメヒメハマキの幼虫は尾叉がない。また、トドマツヒメハマキの老齢幼虫は体長約9mmと小さく、きれいな筒状の巣を作り、巣の中で蛹になる。

【生態】

宿主: トドマツ。

年1世代。卵越冬。幼虫は6月上旬~7月上旬に当年生葉を食べる。小さな幼虫は葉を筒状に束ねて巣を作る。大きな幼虫は葉を雑につづり合わせて巣にする。巣の内側に面する部分を削り取るように食べるので、巣は黄色になる。6月下旬~7月上旬に糸にぶらさがって地上におり、落葉中で蛹になる。成虫は7月中下旬に出現。

【被害】

トドマツ林で多発するとされるが、多発記録はほとんどない。

【文献】

1984. 鈴木重孝, 駒井古実. 北海道における針葉樹を摂食する小蛾類. 北海道林業試験場報告, 22: 85-129. (分類, 形態, 生態)

北海道立林業試験場・緑化樹センター

トドマツアミメヒメハマキ hamaki/todoami/
kaisetu.htm

「文章」原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/12/23.